

# 日刊 勤労千葉

86. 6. 25  
No. 2275

## 国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五（六）（公衆）〇四七二（22）七二〇七

### 反対同盟二〇年の全てをけ 夏秋二期着工を阻止するぞ

六月二二日、三里塚菱田現地において「東峰裁判闘争勝利、成田用水粉砕、二期着工阻止六・二二現地総決起集会」が開催され、勤労千葉は三〇名が最後まで闘いぬいてきた。この六・七月から夏秋を迎えようとしている三里塚二期工事阻止、国鉄分割・民営化阻止、中曽根打倒の闘いは待ったなしの決戦へと突入した。勤労千葉は、この決戦へ全力で決起しなければならぬ。

#### 三里塚闘争は今日で二十年

三里塚菱田・天神橋の集会場において一時十五分、反対同盟青行隊・木内秀次氏のシュプレヒコールによって集会が開催され、二期用地内の島村良助氏が開会あいさつにたち「千五百の機動隊を常駐させ、その暴力をもってしても菱田の成田用水工事は完成できなかった。公団はつぎは警備道路を着工しようとしているが、用水粉砕した力をもってすれば着工を阻止できる」と力強い決意を明らかにした。

次に、共に用地内でたたかう小川嘉吉氏が「空港建設のため権力が土地を強奪せんとしてから三里塚闘争は今日で二十年たったが頑張っている」と感慨深げに話された。

#### 重要な局面むかえた 東峰十字路裁判闘争

基調報告にたった北原事務局長は「二十年前の今日、空港建設が富里から三里塚に変更、内定され、七月四日に閣議決定されたが、この間、一回もの説明会も開かれず『閣議決定』のお墨付きをもって農地強奪を行ってきた。農民に生きるための抵抗のたたかいがおこった。二十年間ふり返って見た時、本当によく闘ってきたと思う。これからも自信と確信をもって闘いぬく」として「東峰十字路闘争裁判の一审判決が切迫し、国家権力は反対同盟つぶしを目的に三被告にデッチ上げ重罪・重刑を策動している。被告の無罪を訴え、新たに二十万署名運動の取り組みと二千万円カンパの協力を願う」と決意と訴えを述べられた。

東峰十字路裁判闘争は、判決を間近にひかえて重要な局面をむかえている。えん罪被告としてくやしさを胸に、不屈に闘っている三被告を代表して「懲役十年求刑」攻撃を受けている。秋葉義光氏が闘いぬく決意を明らかにした。

#### 六・七月決戦に勝利し、 夏秋の闘いへ

続いて、鈴木幸司氏の成田用水闘争報告がなされ、「二十年のたたかいの中で一人ひとりを鍛えてきた。この二年間の



成田用水攻撃は、反対同盟を分裂させようというもので、今が正念場、今後の闘いが勝敗を決する」と述べられた。そして、用地内の市東東市氏が「今日まで二十年間闘ってきたのは皆さんと共に闘ってきたから」と淡々と語った。また、婦人行動隊の郡司とめさんが「二十年は長かったでしょう、とよく言われるが、闘いの連続であつたという間であつた」青年行動隊・伊藤信晴氏は「今こそ二十年間の闘いのすべてをかけ決起しなければならぬ」と決意を述べた。

そして、連帯のあいさつに勤労千葉・桜沢組織部長がたち「中曽根は国鉄改革を何んとしてもやろうとしている。国鉄当局は、十一月ダイ改で闘う国鉄労働運動をつぶそうとし、同時に勤労革マルをとりこんで鉄労などと組織統一させ、労働運動の産報化を狙っている。勤労革マルを全国の職場からたたき出し、十一月ダイ改を粉砕しなければならない」と決意を明らかにした。そして、七・一三三里塚現地闘争への総決起を全員で確認し、天神峰現地闘争本部までのデモ行進を貫徹した。



三里塚-国鉄決戦勝利への断固たる決意を述べる桜沢組織部長。

## 速報

●86年度夏季手当決定  
●基準内賃全の二・八二二分  
●七月四日以降準備でき次第